

発達特性のあるお子さんが 実は困っていることと、家庭でできるかかわり方

岡 実樹

家庭教育応援講座講師
児童発達支援
放課後等ディサービスいろは代表
Okademy 株式会社代表

はじめに（保護者の皆さんへ）

お子さんのことで、
「どうして同じことを何度も言わせるのだろう」
「やればできるはずなのに」
と感じることはありますか。

実は、発達特性のある子どもたちは、
「やりたくない」からできないのではなく、
「一生懸命やっているのに、うまくいかない」ことで困っている
ことがあります。

このコラムでは、
お子さんが抱えやすい困りごとと、
家庭でできる具体的なかかわり方をセットでお伝えします。

「困りごと」と「かかわり方」

①指示や説明がうまく入らない

- ・お子さんの困りごと
聞いていないように見える
途中で動き出す
同じ質問を何度もする

■考えられる理由

理解力が低いのではなく、
情報を整理したり、切り替えたりすることが苦手な場合があります。

■かかわり方のヒント

- 指示は「短く・一つずつ」
- ✗ 「早く片付けて、着替えて、歯みがきしてからランドセル持ってきて」
- 「今は片付け」
・「次は着替え」
・「終わったら教えてね」

✿ ポイント ✿

- ・一度に一つ
- ・順番は区切る
- ・本人に終わりを伝えてもらう



②周りと同じようにするのが、とても大変

- ・お子さんの困りごと
集団で疲れやすい
音や光に敏感
黒板や文字を追うのに時間がかかる



■考えられる理由

周りからは「普通」に見えても、
その子にとっては強いエネルギーが必要なことがあります。

■かかわり方のヒント

- ・頑張りすぎていないかを意識する
- ・「できて当たり前」と思われがちなことも認める
- ・お子さんが上手くいっている状況を記録し、その環境を他の場所でも作る



③同じミスを繰り返す・忘れ物が多い

- ・お子さんの困りごと
忘れ物が多い
同じ注意を何度も受ける

■考えられる理由

記憶力の問題ではなく、他の物に気が散っていたり、
思い出すきっかけが足りなかったりすることがあります。

■かかわり方のヒント

- ・前日に一緒に準備する
- ・チェック表やメモを使う
- ・物の置き場所を固定する
- ・忘れたときは「貸してください。ありがとう」という練習をしましょう



④怒る・泣く・黙り込むことがある

- ・お子さんの困りごと
感情が爆発する
話し合いができない

■考えられる理由

気持ちを言葉にすることが難しく、
感情が先に出てしまうことがあります。

■かかわり方のヒント

- ・落ち着くまでは話をしない
- ・「今しんどいね」と気持ちを代弁する
- ・安心できる距離で見守る→落ち着いてから、気持ちにラベリングをする



⑤ やる気がないように見える

- ・お子さんの困りごと
すぐに「やりたくない」と言う
始めるまでに時間がかかる

■考えられる理由

失敗体験が多く、
「またできなかつたらどうしよう」という不安が強い場合があります。



■かかわり方のヒント

- ・小さく始められる形にする→いきなり難しい課題を与えない
- ・結果より過程を認める

⑥ 周りと比べて落ち込む

- ・お子さんの困りごと
自信がない
すぐに「どうせ無理」と言う

■考えられる理由

自分の苦手さを自覚しやすく、
自己否定につながりやすい傾向があります。



■かかわり方のヒント

- ・他人と比べない声かけをする
- ・その子の得意を言葉にする
- ・存在そのものを認める言葉を増やす

※自分の特徴を知ることは大切です。

●●が得意、●●苦手など。ただ、それで落ち込む必要はありませんので、それがあなたしさです。

最後に・・・保護者の皆さんに知っておいてほしいこと

お子さんの困りごとは、
能力の問題ではなく、環境とのミスマッチであることがあります。
関わり方や環境を少し工夫するだけで、驚くほど楽になる子もたくさんいます。

完璧な対応は必要ありません。

「この子は今、何に困っているのかな?」そう考えてもらえるだけで、子どもは安心します。

私たちは、お子さんが「できない自分」ではなく

「自分らしい良さ」に気づけるよう、これからも一緒に考え、支えていきたいと思っています。